

南相馬市復興総合計画後期基本計画（素案）新旧対照表

ページ	新	旧
2	<p data-bbox="315 323 510 357"><u>1 はじめに</u></p> <p data-bbox="315 419 1144 501"><u>2 南相馬市復興総合計画基本構想及び前期基本計画等の策定</u></p> <p data-bbox="315 563 1048 596"><u>3 南相馬市復興総合計画後期基本計画策定の趣旨</u></p> <p data-bbox="315 659 1144 932">震災と原発事故から8年が経過し、徐々に市民生活の環境は整いつつあるものの、新たな課題も生じています。帰還困難区域を除く避難指示区域が2016年7月12日に解除されましたが、<u>住民基本台帳に登録された人口のうち、実際の居住人口は3割に留まり、この区域の高齢化率は他地域と比較して高い状況にあります。</u></p> <p data-bbox="315 948 1144 1123">また、本市全体としても、人口減少・少子高齢化が進行する中で、将来を見据えて地域を維持することへの対応は、今、できる限りのことに<u>市民・事業者・行政が一体で取り組む必要があります。</u></p>	<p data-bbox="1193 323 1290 357">(追加)</p> <p data-bbox="1193 419 1290 453">(追加)</p> <p data-bbox="1193 563 1290 596">(追加)</p> <p data-bbox="1178 659 2013 932">震災と原発事故から8年が経過し、徐々に市民生活の環境は整いつつあるものの、新たな課題も生じています。帰還困難区域を除く避難指示区域が2016年7月12日に解除されましたが、<u>居住人口は住民基本台帳人口の3割に留まり、この区域の高齢化率は他地域と比較して高い状況にあります。</u></p> <p data-bbox="1178 948 2013 1123">また、本市全体としても、人口減少・少子高齢化が進行する中で、将来を見据えて地域を維持することへの対応は、今、できる限りのことに_____<u>取り組む必要があります。</u></p>
3	<p data-bbox="315 1142 1151 1415">このことから、第二次総合計画の進捗状況を検証し計画を見直して、新たな取組を実施するため、第二次総合計画後期基本計画（以下、「後期基本計画」という。）の着手を<u>当初2020年度の予定から1年前倒しし、復興を加速すべく4年間の計画期間に改め、2019年度からスタートさせる「後期基本計画」</u>を策定しました。</p>	<p data-bbox="1178 1142 2013 1415">このことから、第二次総合計画の進捗状況を検証し計画を見直して、新たな取組を実施するため、第二次総合計画後期基本計画（以下、「後期基本計画」という。）の着手を_____<u>1年前倒しし、復興を加速すべく4年間の計画期間に改め、2019年度からスタートさせる「後期基本計画」</u>を策定しました。</p>

4	<p>後期基本計画でも、人口減少の対応に引き続き取り組むことから、後期基本計画内に市総合戦略を位置付け<u>(創生法第10条に基づく計画)</u>、一体的に取り組んでいくこととします。</p>	<p>後期基本計画でも、人口減少の対応に引き続き取り組むことから、後期基本計画内に市総合戦略を位置付けて、一体的に取り組んでいくこととします<u>(創生法第10条に基づく計画)</u>。</p>
5	<p>また、評価結果は、翌年度の実施計画に反映し、<u>予算編成を連動</u>させることでPDCA サイクルを実質化します。さらに、<u>市民が参加する外部組織による評価によって、評価の客観性を担保するとともに、実施計画や評価結果を公表することで透明性を担保</u>します。</p>	<p>また、評価結果は、翌年度の実施計画に反映_____させることでPDCA サイクルを実質化します。</p>
7	<p>本市の老年人口比率は、2000年に21%を上回る超高齢時代へ突入し、2018年4月時点で<u>居住人口に占める老年人口比率が35.1%まで上昇</u>しました。今後更なる高齢化の進行により2040年には<u>老年人口比率(46.1%)が生産年齢人口比率(45.1%)を上回</u>ることが推測されるため、1人当たりの働く世代が1人当たりの高齢者を支えられない時代になることが見込まれています。</p>	<p>本市の老年人口比率は、2000年に21%を上回る超高齢時代へ突入し、2018年4月時点で<u>居住人口_____が35.1%まで上昇</u>しました。今後更なる高齢化の進行により2040年には<u>老年人口比率_____が生産年齢人口比率_____を上回</u>ることが推測されるため、1人当たりの働く世代が1人当たりの高齢者を支えられない時代になることが見込まれています。</p>

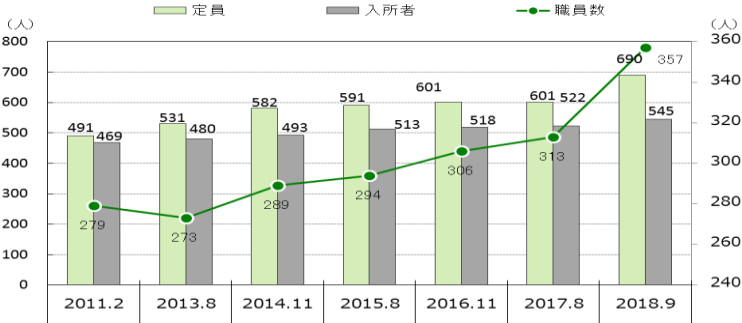
8	<p>このことから、新技術の導入による経営効率化、<u>風評払拭</u>の取組、担い手の育成・確保、女性が働きやすい環境づくりなどにより、多様な人材が活躍できる環境づくりや新産業（AI、ロボット、IoT 技術等）に携わる事業所の創出・人材育成への支援が求められています。</p> <p>さらに、環境放射線モニタリングの継続、再生可能エネルギーの導入推進などにより、市民が安心して快適に暮らすことができる都市基盤・環境の維持とともに市民一人ひとりが環境への意識を高め、リサイクルや省エネルギーに更に取り組むことが求められています。</p>	<p>このことから、新技術の導入による経営効率化や風評払拭の取組、担い手の育成・確保、女性が働きやすい環境づくりなどにより、多様な人材が活躍できる環境づくりや新産業（AI、ロボット、IoT 技術等）に携わる事業所の創出と人材育成への支援が求められています。</p> <p>さらに、環境放射線モニタリングの継続、再生可能エネルギーの導入推進などにより、市民が安心して快適に暮らすことができる都市基盤・環境の維持、そして、市民一人ひとりが環境への意識を高め、リサイクルや省エネルギーに更に取り組むことが求められています。</p>
9	<p>働く世代の減少に伴い、市職員においても定数の減少が避けられない時代が予想されるため、創意と工夫や市民や民間との役割分担など、行政サービスのあり方について検討する必要があります。</p>	<p>働く世代の減少は、市職員においても定数の減少が避けられない時代が予想されるため、創意と工夫や市民や民間との役割分担など、行政サービスのあり方について検討する必要があります。</p>
10	<p>2018 年以降の人口推移は、<u>復興事業の進捗に伴う市民生活の再建状況</u>が、市全体の帰還人口に影響が及ぶものと見込まれており、2024 年頃まで 5 万人規模を維持し、その後減少が続き 2040 年には 4 万人規模になることが推測されます。</p> <p>本市の年齢別人口比率の推移は、年少人口と生産年齢人口に伴い、2040 年には老年人口比率（46.1%）が生産年齢人口比率（45.1%）を上回ることが推測されます。</p>	<p>2018 年以降の人口推移は、<u>復興事業による市民生活の再生環境</u>が、市全体の帰還人口に影響があると見込まれており、2024 年頃まで 5 万人規模を維持し、その後減少が続き 2040 年には 4 万人規模になることが推測されます。</p> <p>本市の年齢別人口比率の推移は、年少人口と生産年齢人口の減少に伴い、2040 年には老年人口比率が生産年齢人口比率を上回ることが推測されます。</p>

13	<p>後期基本計画期間である 2019 年度から 2022 年度までにおける財政の見通しは、人口減少等に伴う市税収入の減少、合併後の特例措置終了に伴う普通交付税の減少、さらなる高齢化の進行に伴う社会保障費の増加、公共施設の経年劣化の進行による維持補修費の増加など、_____ 一層厳しいものとなるが見込まれます。</p> <p>特に、震災・原発事故関連事業は、2020 年度末に復興・創生期間の終期を迎えるため、歳入・歳出推測額は、2021 年度以降に大幅な減少が推測されます。</p>	<p>_____ 人口減少等に伴う市税収入の減少、合併後の特例措置終了に伴う普通交付税の減少、さらなる高齢化の進行に伴う社会保障費の増加、公共施設の経年劣化の進行による維持補修費の増加など、後期基本計画期間における財政の見通しは、一層厳しいものとなるが見込まれます。</p> <p>特に、震災・原発事故関連事業は、_____ 復興・創生期間の終期を迎えるため、歳出及び歳入推測額は、2021 年度以降に大幅な減少が推測されます。</p>
----	---	--

<p>16</p> <p>(注釈)</p>	<p>後期基本計画では、この考え方を「<u>100年のまちづくり</u>」と表するとともに、政策目標として掲げます。</p> <p>先人たちが天明の大飢饉を乗り越え、<u>報徳仕法</u>でこの地を拓いたように、私たちが未曾有の困難な状況を乗り越え、未来の子ども達も家族や友人とともに暮らし続けられることを目指します。</p> <p><u>報徳仕法は、二宮尊徳の教えに基づく農村の立て直しのことをいいます。この取り組みにより、荒れた農村を立て直すため、儉約や貯蓄だけでなく、農民の働く意欲を高めるしくみを作るなど、様々な取り組みが行われました。</u></p> <p><u>奥州中村藩では、天明の飢饉以降、冷害や洪水によってたびたび凶作となり、田畑は荒れ、餓死者や領内から逃げ出す者が続出し、人口が3分の1までに減少してしまいました。藩士の富田高慶は、荒れ果てた領内を立て直すため、二宮尊徳のもとに入門し、報徳仕法を学び、尊徳の代理として中村藩の報徳仕法を指導し、領民たち多くの人々と協力しながら、荒廃した村々を立て直しました。</u></p>	<p>後期基本計画では、この考え方を「<u>100年のまちづくり</u>」と表するとともに、政策目標として掲げます。</p> <p>先人たちが天明の大飢饉を乗り越え、<u>報徳仕法</u>でこの地を拓いたように、私たちが未曾有の困難な状況を乗り越え、未来の子ども達も家族や友人とともに暮らし続けられることを目指します。</p> <p>(追加)</p>
<p>17</p>	<p>相馬野馬追祭や自然・文化等の地域資源を磨きつないで新たな通年観光を構築し、訪問人口を増やします。また、自治体交流や民間交流により交流人口を増やし、移住へ繋がる取組を推進します。</p>	<p>相馬野馬追祭や自然・文化等の地域資源を磨きつなぐ新たな通年観光を構築し、訪問人口を増やします。また、自治体交流や民間交流により交流人口を増やし、移住へ繋がる取組を推進します。</p>
<p>19</p>	<p>①<u>豊かな心と体の育成</u></p> <p>③<u>_____学校環境の整備</u></p>	<p>①<u>豊かな心の育成</u></p> <p>③<u>安全な学校環境の整備</u></p>

21	◆ <u>ロボットをはじめとする先端技術等を強み産業へ育成する取組を推進します。</u>	◆ <u>ロボット産業を強み産業へ育成する取組を推進します。</u>								
22	◆ <u>地域資源等を活用した魅力発信によるシティプロモーション</u>	◆ <u>地域資源等を活用した魅力発信によるシティプロモーション</u>								
(注釈)	<u>人や企業に「住んでみたい」、「ビジネスをしたい」と思われるよう、都市としてのイメージや知名度を高めるための情報発信のこと。</u>	(追加)								
26	<p>1 豊かな心と体の育成</p> <hr/> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">新体力テスト</th> </tr> <tr> <th>現状値 (2017)</th> <th>目標値 (2022)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5 40%</td> <td>小5 44%↑</td> </tr> <tr> <td>中2 47.8%</td> <td>中2 51%↑</td> </tr> </tbody> </table>	新体力テスト		現状値 (2017)	目標値 (2022)	小5 40%	小5 44%↑	中2 47.8%	中2 51%↑	<p>1 豊かな心____の育成</p> <hr/> <p>(追加)</p>
新体力テスト										
現状値 (2017)	目標値 (2022)									
小5 40%	小5 44%↑									
中2 47.8%	中2 51%↑									

27	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">全国学力調査</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>小6 100</td> <td>小6 103↑</td> </tr> <tr> <td>中3 97</td> <td>中3 100↑</td> </tr> </table> <p>3 _____ 学校環境の整備</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">関係団体との通学路の合同点検回数</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2017)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>年1回</td> <td>年1回↑</td> </tr> </table>	全国学力調査		現状値 (2018)	目標値 (2022)	小6 100	小6 103↑	中3 97	中3 100↑	関係団体との通学路の合同点検回数		現状値 (2017)	目標値 (2022)	年1回	年1回↑	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">全国学力調査</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>全国平均と同程度</td> <td>全国平均を上回る</td> </tr> </table> <p>3 安全な学校環境の整備</p> <p>(追加)</p>	全国学力調査		現状値 (2018)	目標値 (2022)	全国平均と同程度	全国平均を上回る
全国学力調査																						
現状値 (2018)	目標値 (2022)																					
小6 100	小6 103↑																					
中3 97	中3 100↑																					
関係団体との通学路の合同点検回数																						
現状値 (2017)	目標値 (2022)																					
年1回	年1回↑																					
全国学力調査																						
現状値 (2018)	目標値 (2022)																					
全国平均と同程度	全国平均を上回る																					
33	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">市総合体育大会への参加者数</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>2,460人</td> <td>2,583人↑</td> </tr> </table>	市総合体育大会への参加者数		現状値 (2018)	目標値 (2022)	2,460人	2,583人↑	<p>(追加)</p>														
市総合体育大会への参加者数																						
現状値 (2018)	目標値 (2022)																					
2,460人	2,583人↑																					
38	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">食生活改善推進員</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>54人</td> <td>60人↑</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">ゲートキーパー登録者数</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>68人</td> <td>97人↑</td> </tr> </table>	食生活改善推進員		現状値 (2018)	目標値 (2022)	54人	60人↑	ゲートキーパー登録者数		現状値 (2018)	目標値 (2022)	68人	97人↑	<p>(追加)</p> <p>(追加)</p>								
食生活改善推進員																						
現状値 (2018)	目標値 (2022)																					
54人	60人↑																					
ゲートキーパー登録者数																						
現状値 (2018)	目標値 (2022)																					
68人	97人↑																					

42		(追加)						
44	<table border="1" data-bbox="331 643 992 770"> <tr> <th colspan="2">週一サロンを実施する地域</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>14 か所</td> <td>34 か所 ↑</td> </tr> </table>	週一サロンを実施する地域		現状値 (2018)	目標値 (2022)	14 か所	34 か所 ↑	(追加)
週一サロンを実施する地域								
現状値 (2018)	目標値 (2022)							
14 か所	34 か所 ↑							
45	<table border="1" data-bbox="331 834 992 962"> <tr> <th colspan="2">市外避難者の帰還者数</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>774 人 ↑</td> </tr> </table>	市外避難者の帰還者数		現状値 (2018)	目標値 (2022)	—	774 人 ↑	(追加)
市外避難者の帰還者数								
現状値 (2018)	目標値 (2022)							
—	774 人 ↑							

<p>49</p> <p>(注釈)</p> <p>(注釈)</p>	<p><u>○スマート農業の実証等支援</u></p> <p>◆<u>ほ場整備</u>はじめとした<u>農業生産基盤</u>を整備します。</p> <p><u>ロボット・AI・IoT等の先端技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産等を実現する新たな農業のこと。</u></p> <p><u>ほ場整備は、農業の再生と振興を図るため、農地を県営の復興基盤総合整備事業（土地改良事業）等により再整備するものです。</u></p>	<p>(追加)</p> <p>◆<u>ほ場整備</u>をはじめとした生産基盤を整備します。</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p>
<p>50</p>	<p>(削除) P56 へ</p>	<p><u>○農家民宿への支援</u></p>
<p>52</p>	<p>◆<u>ロボットをはじめとする先端技術等を強み産業へ育成する取組を推進</u>します。</p> <p>◆<u>小中学生のロボット教育の推進と高等教育機関との連携を推進</u>します。</p> <p>○<u>ロボット関連事業者等の誘致</u></p>	<p>◆<u>ロボット産業を強み産業へ育成する取組を推進</u>します。</p> <p>◆<u>小中学生のロボット学習を推進</u>します。</p> <p>○<u>ロボット関連事業者の誘致</u></p>

<p>55</p>	<table border="1" data-bbox="331 264 992 399"> <tr> <th colspan="2">観光イベント参加者数</th> </tr> <tr> <td>現状値 (2018)</td> <td>目標値 (2022)</td> </tr> <tr> <td>240,000 人</td> <td>358,000 人 ↑</td> </tr> </table> <p>○サーフツーリズムの再開</p> <p>(注釈) (削除) P22 へ</p> <p>(注釈) ○サーフツーリズムの再開 <u>海資源と人的支援を活用し、交流人口の拡大を図るものであり、サーフィンだけではなく他のマリンスポーツやレジャーも含め、海を活用した交流を総合的に考えていく取組のこと。</u></p>	観光イベント参加者数		現状値 (2018)	目標値 (2022)	240,000 人	358,000 人 ↑	<p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p><u>人や企業に「住んでみたい」、「ビジネスをしたい」と思われるよう、都市としてのイメージや知名度を高めるための情報発信のこと。</u></p> <p>(追加)</p>
観光イベント参加者数								
現状値 (2018)	目標値 (2022)							
240,000 人	358,000 人 ↑							

<p>56</p> <p>(注釈)</p> <p>(注釈)</p>	<p>◆市内外の民間交流の意識醸成を図るとともに、交流活動団体を支援します。</p> <table border="1" data-bbox="331 360 992 488"> <tr> <th colspan="2">体験交流事業参加者</th> </tr> <tr> <td>現状値（2018）</td> <td>目標値（2022）</td> </tr> <tr> <td>7,243 人</td> <td>8,000 人↑</td> </tr> </table> <p>(削除) P55 へ</p> <p>○南相馬市サポーターの加入推進</p> <p><u>南相馬市で生まれ愛着を持ちながらも離れた都市で暮らす人や市外からの通勤・通学者、ボランティアやふるさと納税を行った人など、南相馬市と関係のある人たちが、市の情報発信するなど、交流促進や移住・定住につなげるために継続的に応援してくれる人のこと。</u></p> <p>○スタディツアーの実施</p> <p><u>観光ツアーとは違い、旅を通して学ぶことを目的としたツアーのこと。</u></p> <p>○農家民宿への支援</p>	体験交流事業参加者		現状値（2018）	目標値（2022）	7,243 人	8,000 人↑	<p>◆_____民間交流の意識醸成を図るとともに、交流活動団体を支援します。</p> <table border="1" data-bbox="1198 360 1859 488"> <tr> <th colspan="2">観光イベント、体験交流事業参加者数</th> </tr> <tr> <td>現状値（2017）</td> <td>目標値（2022）</td> </tr> <tr> <td>246,000 人</td> <td>375,000 人↑</td> </tr> </table> <p>○サーフツーリズムの再開</p> <p>○南相馬市サポーターの加入推進 (追加)</p> <p>○スタディツアーの実施 (追加)</p> <p>(追加)</p>	観光イベント、体験交流事業参加者数		現状値（2017）	目標値（2022）	246,000 人	375,000 人↑
体験交流事業参加者														
現状値（2018）	目標値（2022）													
7,243 人	8,000 人↑													
観光イベント、体験交流事業参加者数														
現状値（2017）	目標値（2022）													
246,000 人	375,000 人↑													
<p>58</p>	<p>水道水の放射性物質に対する市民の不安払拭のため、継続した放射線量測定と測定結果に基づく安全・安心をPRすることが必要です。また、<u>公共用水域</u>の環境保全及び公衆衛生の向上のため、公共下水道の維持管理や合併処理浄化槽 への転換促進が必要です。</p>	<p>水道水の放射性物質に対する市民の不安払拭のため、継続した放射線量測定と測定結果に基づく安全・安心をPRすることが必要です。また、<u>公共水域</u>の環境保全及び公衆衛生の向上のため、公共下水道の維持管理や合併処理浄化槽 への転換促進が必要です。</p>												

60	◆自動運転移動サービス等の次世代システムの調査研究や <u>実証・実装事業の誘致等</u> に取り組みます。	◆自動運転移動サービス等の次世代システムの調査研究や <u>実証事業の誘致</u> に取り組みます。						
71	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">まちづくり活動支援事業補助件数</th> </tr> <tr> <td>現状値（2017）</td> <td>目標値（2022）</td> </tr> <tr> <td>119 件</td> <td>154 件↑</td> </tr> </table>	まちづくり活動支援事業補助件数		現状値（2017）	目標値（2022）	119 件	154 件↑	(追加)
まちづくり活動支援事業補助件数								
現状値（2017）	目標値（2022）							
119 件	154 件↑							
74	<u>類似団体を下回る</u>	<u>類似団体を下回る</u>						
(注釈)	<u>個々の自治体の財政運営は、その団体のおかれている条件などが異なり、極めて多様であることから、その態様が類似している団体の財政の実態を把握し、それを最も身近な尺度として利用することができるよう国が人口規模や産業構造で細分化、グループ分けしたもの。</u>	(追加)						
76～85	(別紙のとおり)	(別紙のとおり)						
85	(削除) P74 へ	<u>個々の自治体の財政運営は、その団体のおかれている条件などが異なり、極めて多様であることから、その態様が類似している団体の財政の実態を把握し、それを最も身近な尺度として利用することができるよう国が人口規模や産業構造で細分化、グループ分けしたもの。</u>						
(注釈)								
86	<u>後期基本計画</u> 策定後に策定や改訂される分野別計画については、策定・改訂の時機に合わせて、最上位計画である <u>後期基本計画</u> との整合を図っていきます。	<u>第二次総合計画</u> 策定後に策定や改訂される分野別計画については、策定・改訂の時機に合わせて、最上位計画である <u>第二次総合計画</u> との整合を図っていきます。						